



国民の森林・国有林

地域管理経営計画等の策定及び変更に係る 有識者懇談会を開催 6森林計画区の樹立・24計画区の変更に対する意見を聴取



冒頭、挨拶される原田局長

「国が主体となつて民有林を含めた林業のあり方を検討していただき「生産性を高めるために、林

「国有林野の管理経営に関する法律」等に基づき、地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画策定等に係る有識者懇談会を、2月28日に開催しました。

有識者懇談会では、令和元年度に策定する福岡森林計画区(福岡署)をはじめとする6森林計画区の計画案及び、沖縄中南部計画区を除く24森林計画区の変更計画案について記載内容を審議するとともに、令和元年度九州



有識者懇談会の模様

原田前局長は北海道森林管理局長へ 後任は小島前東北森林管理局長

4月1日付で原田隆行前局長が北海道森林管理局長へ転出、後任に小島孝文前東北森林管理局長が就任しました。

【新局長の略歴は次のとおりです】

(東京都出身：57歳)

昭和62年4月 農林水産省入省
(I種・林学)

平成9年10月 熊本営林局
屋久島営林署長

平成21年9月 林野庁森林整備部計画課
首席森林計画官

平成24年4月 林野庁森林整備部計画課施工企画調整室長

平成26年7月 林野庁林政部木材産業課長

平成28年8月 林野庁森林整備部整備課長

平成29年7月 東北森林管理局長

令和2年4月 現職



こじま たかふみ

小島 孝文

業事業体に何らかのインセンティブを与える取組や、森林管理局が率先して林道を整備



座長を務めていただいた地頭蘭教授

「近年、気候変動の影響と思われる大規模災害が増加しており、治山事業などにより森林を管理している森林管理局の役割は非常に大きいと感じている」などのご意見をいただきました。計画案の修正を求めめる意見はなく、計画案は了承され、3月28日に公表しました。計画の詳細につきましては、九州森林管理局のホームページをご覧ください。
(担当：計画課)

令和元年度第3回保護林管理委員会を開催 平成31年度保護林モニタリング調査の評価等について審議

2月26日、第3回九州森林管理局保護林管理委員会を開催しました。

原田隆行森林管理局長の挨拶の後、「平成31年度保護林モニタリング調査の評価について」「令和2年度保護林モニタリング調査箇所及び調査項目について」「保護林の保全に係る方針について」「保護林の設定について（宮崎県日南市 新村地区）」について順に審議を行いました。

「平成31年度保護林モニタリング調査の評価」については、事務局から説明し、委員からは、「調査結果のまとめ方



挨拶される原田局長

については、設定目的の保護対象種等を示したうえで、プロット内の報告だけでなく、質的变化を含めた保護林全体としての評価をすること」「シカ被害などにより保護対象種がプロット内で確認できない場合は、プロットまでのルート等で状況を把握し、保護林全体の評価に反映すること」などの意見が出され審議の結果、了承され、来年度の第1回保護林管理委員会において、出された意見等を踏まえた保護林管理方針書の改訂案を示すこととなりました。

「令和2年度保護林モニタ



挨拶される米田委員長



委員会の様子

リング調査箇所及び調査項目について、調査箇所及び調査項目を事務局から説明し、委員からは、「鳥類などの動物を調査する際は、確認された種と生息環境の変化との関係に留意すること」などの意見が出され、審議の結果、了承されました。

「保護林の保全に係る方針について」については、事務局からの説明に対し、「ブナ林の土壌を乾燥から守っているスズタケがシカ食害により消失しているため、生残箇所には可能な限り植生保護柵を設置することが望ましい」な

どの意見が出され、審議の結果、了承されました。

「保護林の設定について（宮崎県日南市 新村地区）」については、第1回委員会の審議内容を踏まえ、生物群集保護林の設定区域案を事務局から提案し、了承されました。

九州森林管理局では、いただいたご意見を踏まえ、保護林の保全管理に引き続き取り組んでいくこととしていきます。

※本管理委員会の審議概要は、九州森林管理局HP（キーワード：保護林管理委員会）でご覧になれます。

人のうごき

（担当計画課）

☆3月31日付退職

- 角 秀敏【福岡署】
 - 山脇 寿【佐賀署】
 - 穴井隆文【大分西部署】
 - 平山由希子【大分署】
 - 藤田敬一郎【都城支署】
 - 上村好花【宮崎北部署】
- ☆3月31日付異動（退職）
国立研究開発法人森林研究・

整備機構森林総合研究所林木育種センター九州育種場連絡調整課長

野邊忠司【宮崎南部署】
福岡県農林水産部森林林業総室森林計画課
山本遼平【宮崎北部署】
鹿児島県環境林務部森林経営課

田中靖政【沖繩署】
☆4月1日付異動
関東森林管理局森林整備部長
山口輝文【鹿児島署長】
林野庁国有林野部管理課企画官（共済組合担当）
黒木慶次郎【宮崎北部署長】
地域木材情報分析官
井上智晴【大隅署長】
福岡森林管理局長
佐藤 肇【関東森林管理局森林整備部長】
熊本南部森林管理局長
赤星良治【治山課長】
大分森林管理局長
猪島明久【林野庁林政部木材産業課課長補佐】（木材技術班担当）
宮崎北部森林管理局長
黒木興太郎【屋久島森林生態系保全センター所長】
鹿児島森林管理局長
永山正一【国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所総務部長】
大隅森林管理局長
山本文雄【経理課長】

經理課長

岩下隆徳【総務企画部企画調整課監査官】

治山課長

富永雄二【計画保全部治山技術専門官】

森林整備課長

木林静夫【資源活用課長】

佐藤敏郎【森林整備部企画官（木材需給対策担当）】

技術普及課長

白濱正明【西都府湯野署次長】

総務企画部企画調整課監査官
宮崎健次【総務企画部総務課企画官（安全衛生担当）】

総務企画部専門官（契約適正化担当）

久保幸治【熊本署次長】

総務企画部専門官（契約適正化担当）

山部裕一【大臣官房検査・

観察部検査課検査官】

総務企画部総務課企画官（安全衛生担当）

岩本清文【屋久島署次長】

森林整備部企画官（木材需給対策担当）

片原三幸【近畿中国局島根署次長】

森林整備部企画官（技術開発担当）

岩下哲博【宮崎北部署次長】

屋久島森林生態系保全センター所長

林 友和【計画保全部専門官（災害調整担当）】

計画保全部自然遺産保全調整官

下崎哲也【計画保全部計画課森林施業調整官】

計画保全部治山技術専門官

一口哲美【総務企画部専門官（契約適正化担当）】

大山昭一（熊本署）

城 邦典（熊本署）

工藤 孝（熊本南部署）

平田謙吉（熊本南部署）

岩下真仁（熊本南部署）

坂本和隆（大分署）

山本純也（大分署）

歌野光康（宮崎北部署）

河野幸夫（宮崎署）

郷原寛美（宮崎南部署）

森 津積（鹿児島署）

中村勇次郎（沖縄署）

石神智生（資源活用課）

甲斐博文（技術普及課）

井上 正（森林技術・支援センター）

鞭馬一郎（佐賀署）

本山 巖（長崎署）

松井弘喜（長崎署）

中嶋紀光（熊本署）

計画保全部専門官（災害調整担当）

山村晃弘【計画保全部治山課流域保全治山対策専門官】

計画保全部治山課流域保全治山対策専門官

古庄誠司【鹿児島署総括治山技術官】

森林整備部企画官（長期安定供給担当）

桑原英隆【技術普及課長】

計画保全部治山課災害対策分析官

久保田利郎【福岡署森林土木指導官】

長崎署次長

篠村和希【総務企画部総務課課長補佐（総務担当）

熊本署次長

溝越啓二【長崎署次長】

大分西部署次長

森本 明【国立研究開発法

人森林研究・整備機構森林総合研究所林木育種センター九州育種場連絡調整課長】

宮崎北部署次長

小原豊治【計画保全部自然遺産保全調整官】

西都府湯野署次長

奥村 克【計画保全部生態系管理指導官】（屋久島森林生態系保全センター）

宮崎南部署次長

松永真弥【大分西部署次長】

屋久島署次長

石原健司郎【計画保全部保全課課長補佐】

林野庁林政課人事第2班給与第2係長

北里春香【熊本署】

環境省関東地方環境事務所野生生物課取引監視係

池田一穂【屋久島署】

環境省九州地方環境事務所野生生物課自然保護官

吉坂雅夫【佐賀署】

北海道局後志署主任治山技術官

村田修也【治山課】

東北局宮城北部署治山技術官

関矢敬介【沖縄署】

総務課課長補佐（総務担当）

鎌水隆憲【計画保全部計画課駐在】

総務課共済組合係長

峰 俊之【林野庁企画課】

総務課安全衛生係長

企画調整課課長補佐

村上國男【企画調整課】

經理課収入係長

佐藤讓治【総務課】

經理課

辻田優衣【長崎署】

計画保全部生態系管理指導官

藤原昭博【熊本署】

計画課森林施業調整官

興相美喜夫【福岡署】

計画課計画調整

平生陽介【鹿児島署】

計画課経営計画官

歌野国光【宮崎署】

計画課

片桐琴羽【林野庁木材産業課】

保全課課長補佐

三吉康治【保全課】

保全課鑑定官

甲斐和幸【保全課】

保全課財産管理係長

中川秀樹【保全課】

保全課計画処分係長

前川康弘【保全課】

保全課森林利用係長

井 崇行【宮崎署】

保全課

田畑駿也【北薩署】

治山課保安林係長

木倉浩二【治山課】

治山課治山技術官

三浦健司【宮崎北部署】

治山課治山技術官

加来尚貴【鳥栖治山事業所】

屋久島森林生態系保全センター

退職者長官の皆さまへ

3月31日付定年退職

寺本 勝（経理課）

矢島欣也（経理課）

松永雄治（計画課）

松永善人（計画課）

坂口 繁（西表森林生態系保全センター）

鎌田敏雄（森林整備課）

石神智生（資源活用課）

甲斐博文（技術普及課）

井上 正（森林技術・支援センター）

鞭馬一郎（佐賀署）

本山 巖（長崎署）

松井弘喜（長崎署）

中嶋紀光（熊本署）

大山昭一（熊本署）

城 邦典（熊本署）

工藤 孝（熊本南部署）

平田謙吉（熊本南部署）

岩下真仁（熊本南部署）

坂本和隆（大分署）

山本純也（大分署）

歌野光康（宮崎北部署）

河野幸夫（宮崎署）

郷原寛美（宮崎南部署）

森 津積（鹿児島署）

中村勇次郎（沖縄署）

生態系指導官

宮本和久【熊本南部署】

西表森林生態系保全センター
専門官

後藤直哉【(研)森林整備
センター九州整備局熊本水源
林整備事務所】

森林整備課設計指導官

野口安男【宮崎北部署】

森林整備課造林係長

山崎 武【鹿児島署】

資源活用課課長補佐

金津圭介【都城支署】

資源活用課供給計画係長

後藤善史【資源活用課】

資源活用課収穫係長

小山雄平【熊本南部署】

資源活用課

伴 遼太郎【林野庁整備課】

森林技術・支援センター副所
長

内村圭一【宮崎署】

森林技術・支援センター森林
技術専門官

大寺義宏【宮崎北部署】

森林技術・支援センター

山形良平【宮崎南部署】

福岡署地域林政調整官

山上哲幸【沖繩課】

福岡署森林土木指導官

針持秀一【森林整備課】

福岡署総括事務管理官

金田伸也【福岡署】

福岡署事務管理官

平松大志【福岡署】

福岡署総括森林整備官

森 浩之【保全課】

福岡署主任森林整備官

高本宗昭【福岡署】

福岡署主任森林整備官

石本敏隆【福岡署】

福岡署森林整備官

井上祐二郎【熊本南部署】

環境事務所国立公園課自然保
護官

長崎署

東 佑太【熊本南部署】

長崎署首席森林官

祐野誠治【佐賀署】

長崎署首席森林官

菅 雅徳【関東局天竜署】

長崎署首席森林官

福岡忠行【大隅署】

長崎署森林官

清田泰志【長崎署】

熊本署森林技術指導官

甲斐誠一【熊本南部署】

熊本署主任地域林政調整官

白石裕次【大隅署】

熊本署事務管理官

古村理恵子【国立研究開発
法人森林研究・整備機構森林
総合研究所林木育種センター
九州育種場】

熊本署総括森林整備官

下大迫伸一【熊本署】

熊本署主任森林整備官

塚本順一【大分西部署】

熊本署治山技術官

松田 遥【熊本署】

熊本署地域統括森林官

松本輝生【熊本署】

熊本署森林官

永野達也【長崎署】

熊本署首席森林官

藤本順也【沖繩署】

熊本南部署森林技術指導官

大岩根 強【西都児湯署】

熊本南部署事務管理官

長崎署森林整備官

今村 誠【環境省九州地方

新規採用者紹介

金城歩乃佳(総務課)

松永一彦(企画調整課)

崎田朱里(福岡署)

東 泰晟(佐賀署)

中越隆太郎(長崎署)

大瀬敦也(熊本署)

平島樹璃(熊本南部署)

高橋 諒(大分西部署)

宮島利華(大分署)

齊田帆乃伽(宮崎北部署)

川畑地歩(西都児湯署)

田中凌太(宮崎署)

中川隆之(都城支署)

田村 舞(宮崎南部署)

竹永真希(北薩署)

一山結以(鹿児島署)

鳥居大輔(大隅署)

土井貴博(屋久島署)

後藤青葉【林野庁業務課】

大分署

大城千英【資源活用課】

大分署地域統括森林官

森 利幸【福岡署】

大分署首席森林官

岩本浩三【西都児湯署】

大分署森林官

下田悠介【都城支署】

大分西部署総括森林整備官

白坂 進【福岡署】

大分西部署主任森林整備官

大塚 磨【宮崎北部署】

大分西部署森林整備官

福泉裕介【大分西部署】

宮崎署事務管理官

立場宏一【宮崎署】

宮崎署森林整備官

上之段斗波【大分署】

宮崎署森林整備官

濱本敬士【福岡署】

宮崎署地域技術官

東條衣里子【宮崎署】
 宮崎署
 藤本泰樹【宮崎署】
 宮崎署首席森林官
 梶丸正幸【宮崎南部署】
 宮崎署首席森林官
 中村正任【大隅署】
 宮崎署首席森林官
 大石成人【宮崎南部署】
 宮崎署森林官
 吉田貴博【都城支署】
 都城支署総括森林整備官
 池水寛治【資源活用課】
 都城支署森林整備官
 木崎慎一【大隅署】
 都城支署主任森林整備官
 水本博充【都城支署】
 都城支署森林整備官
 岩崎貴子【都城支署】
 都城支署森林整備官
 岩下清美【大隅署】
 都城支署
 田吹涼太【大分署】
 都城支署地域統括森林官
 犬童伸博【都城支署】
 都城支署森林官
 森本博之【都城支署】
 都城支署森林官
 坂本徹也【鹿児島県環境林務部森林経営課林業技師】
 務部森林経営課林業技師
 都城支署森林官
 橋本麻美【宮崎署】
 都城支署
 角田まり絵【企画調整課】
 宮崎北部署森林技術指導官
 宮崎太守【北薩署】

宮崎北部署主任事務管理官
 志田明子【総務課】
 宮崎北部署事務管理官
 原口隼人【鹿児島署】
 宮崎北部署主任森林整備官
 柿田憲司【都城支署】
 宮崎北部署主任森林整備官
 那須芳広【大隅署】
 宮崎北部署森林整備官
 橋本浩次郎【大分署】
 宮崎北部署
 山下英晃【佐賀署】
 宮崎北部署首席森林官
 宮川貴之【鹿児島署】
 宮崎北部署
 漢川瑞穂【計画課】
 宮崎南部署森林技術指導官
 寺田雄一郎【宮崎南部署】
 宮崎南部署主任事務管理官
 竹下清高【西都児湯署】
 宮崎南部署総括森林整備官
 山本 正【佐賀署】
 宮崎南部署主任森林整備官
 出田正哲【林野庁業務課】
 宮崎南部署主任森林整備官
 井 誠喜【屋久島署】
 宮崎南部署治山技術官
 橋口逸成【治山課】
 宮崎南部署森林官
 小屋敷祐二【福岡署】
 宮崎南部署森林官
 山本 歩【宮崎署】
 宮崎南部署地域技術官
 小中原 真【宮崎北部署】
 宮崎南部署地域技術官
 竹崎 諒【大隅署】

宮崎南部署
 藤山 樹【沖繩署】
 西都児湯署森林技術指導官
 渡辺浩司【西都児湯署】
 西都児湯署総括事務管理官
 深田孝治【北薩署】
 西都児湯署主任事務管理官
 花田孝文【保全課】
 西都児湯署総括森林整備官
 草野正揮【熊本南部署】
 西都児湯署森林整備官
 塩谷幸子【西都児湯署】
 西都児湯署森林整備官
 野田祐治【熊本署】
 西都児湯署首席森林官
 柏木正美【大隅署】
 西都児湯署森林技術員
 黒木秋夫【西都児湯署】
 鹿児島署森林技術指導官
 藤川晃久【資源活用課】
 鹿児島署事務管理官
 柏木和美【北薩署】
 鹿児島署主任森林整備官
 山部勝範【治山課】
 鹿児島署森林整備官
 飯屋信一【宮崎北部署】
 鹿児島署総括治山技術官
 田中國康【熊本署】
 鹿児島署主任治山技術官
 日隈俊幸【鹿児島署】
 鹿児島署治山技術官
 笹原秀司【宮崎南部署】
 鹿児島署首席森林官
 宮田耕作【北薩署】
 鹿児島署森林官
 由谷浩一【福岡署】

鹿児島署
 山口利明【熊本南部署】
 北薩署総括事務管理官
 外山三男【大隅署】
 北薩署事務管理官
 山部紗耶佳【熊本署】
 北薩署事務管理官
 岡田有帥【関東局吾妻署】
 北薩署総括森林整備官
 荒木逸郎【大分西部署】
 北薩署総括治山技術官
 下池和彦【福岡署】
 北薩署
 後藤小菜美【宮崎南部署】
 北薩署
 溝口英聖【佐賀署】
 北薩署首席森林官
 歌野博幸【環境省九州地方環境事務所野生生物課課長補佐】
 北薩署森林官
 松永直人【北薩署】
 大隅署総括事務管理官
 松下俊二【森林整備課】
 大隅署主任事務管理官
 岩下泰弘【宮崎南部署】
 大隅署事務管理官
 高岡勝美【北薩署】
 大隅署主任森林整備官
 米丸栄輝【都城支署】
 大隅署首席森林官
 東 敬介【宮崎署】
 大隅署首席森林官
 木村 通【大隅署】
 大隅署首席森林官
 宮本和美【宮崎南部署】

大隅署首席森林官
 大岩根 浩【大隅署】
 大隅署森林官
 鶴山喜之【大隅署】
 大隅署
 永井純一【森林技術・支援セクター】
 屋久島署事務管理官
 下村龍也【長崎署】
 屋久島署総括治山技術官
 江口 晃【鹿児島署】
 屋久島署森林官
 志戸祐二【屋久島署】
 屋久島署森林官
 古川拓也【宮崎南部署】
 屋久島署
 林 結実【福岡署】
 沖繩署森林技術指導官
 丸橋宗寿【森林技術総合研修所技術研修課研修企画官】
 沖繩署地域林政調整官
 飯星 明【福岡署】
 沖繩署事務管理官
 廣田俊之【沖繩署】
 沖繩署森林整備官
 角田みなみ【鹿児島署】
 沖繩署森林整備官
 江口誠也【都城支署署】
 沖繩署地域統括森林官
 曲瀬川淳一【沖繩署】
 沖繩署地域技術官
 小崎凌平【宮崎北部署】
 沖繩署
 奥田絢子【都城支署署】
 (担当) 総務課

令和元年度第4回国有林材供給調整検討委員会の報告

令和元年度第4回国有林材供給調整検討委員会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、委員への資料送付及び意見照会方式で令和2年3月12日～16日に実施しました。

【委員会の検討結果】

新型コロナウイルスの中国での感染拡大により、同国への木材輸出が急激に縮小又は一部で停止しており、特にシェアの大きい九州では国内に滞留するこれらの材が国内向けに転換されたこと等から、C材の需給緩和によりB材、A材の価格に影響が出ていると考えられる。

今後の木材輸出の動向は不透明な状況にあることから、当面、新型コロナウイルスの感染拡大等の動向も注視しながら、状況に応じて国有林材の供給の調整を図る必要がある。

各委員からの主な意見は次のとおりです。

○新型コロナウイルスの

影響により、中国への木材輸出が急激に縮小、一部においては完全に停止したためこれらの材が滞留しており、このまま従来どおりの供給を続けるとさらなる供給過剰と価格の下落等に繋がるなど、市場がさらに混乱する恐れがあるため国有林材の供給について調整して欲しい。

○新型コロナウイルスの影響が木材業界に出るのは、産業資材系が早く、建築系は半年後に本格化するのではないかと。一方で輸入品から国産品へ見直しの機会になればと思う。

長期的に見ると国内需要激減と輸出の不振で、当分縮小傾向が続くだろう。業界全体が伸びきっているだけに、対応は簡単ではない。期待していたソフトランディングにはならずハードランディングになりそう。

国有林材の供給については、当分、現状のままで注視して見守ることしかない

のではないかと。

○新型コロナウイルスの影響による経済減速が製品消費の減となり、その結果減産を余儀なくされること懸念される。

スギの輸出については、船積みが遅れ気味。中国の製材所は再開したが、操業率が低く、上海等でのスギの港頭在庫が多く、入港したスギ原木を卸すスペースが無い状況。

当社は足下では通常操業をしている。スポットの原木受け入れは制限しているが、従来からの素材業者に對しては通常の受け入れを行っている。

○輸出材（C材）が市売りで6000円/m³となり、製品も毎日のように価格が下がってきている。

長期的には木材、素材生産業者の倒産・廃業が出てくるのではないかと。また、建設会社（中国製の）部材や住宅設備が入らなく、完成できずに引き渡しが出

来ない状況が出てくるのではないかと。

原木価格の急落で民有林材の出材が減ってきているので、国有林材については供給調整を行わないで欲しい。

○今年に入りさらに木材の需給バランスが崩れ、原木価格が低迷している状況に、追い打ちをかけるように新型コロナウイルスの問題が発生した。これによりさらに需給バランスが崩れ更なる価格低迷等、当面厳しい状況が続くのではないかとと思われる。

この上国有林材の供給がこれまで通り行われた場合、更なる価格の低迷（大暴落）につながる可能性があることから、国有林材の供給調整を検討して欲しい。

○数年の間に素材生産の増産を遂行してきたが、価格の底の見えない状況の中で、人材と機械等に投資をして、前向きに行動してきた我々業界の苦勞が崩壊し

そうではないかと不安である。

丸太価格下落のため、既に山の仕入れ（立木購入）が出来ない状況で、民間の原木供給が激減する可能性があるため、国有林材の供給調整の必要はない。

○木材輸出の停滞を受け、多くの商社が市場における買気減少や直送販売の値下げ等の現状を考えると、行き場を失いつつある「形状・径級」（低質材・大径材）により、全体的な木材相場の下落傾向につながっている。

民有林の木材生産量が増加傾向にある中、輸出が順調な時は低質材の価格底支えがあり平均単価もある程度維持できていたが、輸出停滞に陥り新たな需要先に苦慮している現状があることなどを考慮して、国有林材の供給調整を検討してほしい。

※本検討委員会は、九州森林管理局HPの注目情報「九州森林管理局国有林材供給調整検討委員会の検討結果等について」からご覧になれます。

（担当）地域木材情報分析官

2019フォトコンテスト 九州森林管理局長賞



西都児湯署次長 奥村克撮影

前屋久島森林生態系保全センター
生態系管理指導官

新たにシカ被害 対策協定を締結

【福岡森林管理署】全国的に二ホンシカ被害への対策が求められていますが、福岡県も例外ではなく、二ホンシカ被害への対応が課題となっております。

タイトル：トロの目

このような中で福岡署では被害防護のため植生保護柵を設置するとともに、職員や事業者への委託による捕獲を行う外、署と市町村・猟友会が協定を締結して「わな」を貸し出す取り組みを進めています。



調印式を終えて記念撮影

平成28年度に東峰村・東峰村猟友会と協定を締結し、今年度は7月に朝倉市・朝倉市有害鳥獣駆除部会と協定を結んだのに続き、この2月には篠栗町・糟屋郡猟友会篠栗支部と協定を締結しました。

協定締結時に篠栗町から「署の取組に対して感謝する。篠栗町では、これまではイノシシが目立っていたが、近年は二ホンシカが目立つ。二ホンシカ捕獲について提供された「わな」を活用するとともに、捕獲した二ホンシカのジビエ等利用に向けて町と猟友会で知恵を絞っていききたい」旨の話がありました。

今後は、三者の連携の下で篠栗町内の国有林及び周辺の二ホンシカ被害対策推進のために協力体制を構築し、農林業被害及び生態系被害の防止を図っていきます。

また、朝倉市や篠栗町と協定を結ぶ過程において、国有林の取組が市町村には十分に認知されていない面も多いと感じましたので、様々な機会を利用して国有林のPRにも努めて行きたいと考えています。

林野災害時における森林情報の共有に関する協定を締結

【福岡森林管理署】福岡森林管理署、福岡県による林野災害時における森林情報の共有に関する協定を福岡県農林水産部長と当署長により締結しました。

この協定は、林野災害時における被害状況など森林情報を共有することにより、山地災害等への迅速な対応を通じて地域の安全性の向上を図ることを目的としており、福岡森林管理署と福岡県がドローン(DRV)を活用した林野



調印式を終えて記念撮影

フィールド実習

災害調査などを連携・協力して実施することとしています。また、ドローンの操作研修についても協力して、実施することとしています。

【熊本森林管理署】当署では

3月2日～6日までの5日間において、2名（横浜国立大学、北海道大学から各1名）の令和元年度（春季）の農林水産省就業体験実習（インターシップ）を受け入れ、当署の業務内容等について体験実習を実施しました。

受け入れは中嶋紀光森林技術指導官と藤原昭博総括林政調整官が窓口となり、署内及



特定母樹造林地実習の様子

び森林事務所職員の協力を得ながら、民有林との連携や生物多様性の保全、主伐・再造林について、さらに森林保護（獣害対策）や森林土木事業等について現地実習を交え、幅広く当署の業務について学習してもらいました。

特に現地実習では、絶滅危惧種ゴイシツバメシジミの保護対策や熊本地震で被災した森林の復旧を進めている治山

対策、深刻化するシカ被害対策等について大変関心を示していました。実習生からは、「今回の実習を通じて国有林の業務内容について知ることができとても参考になった、国有林の技術を民有林に普及していく重要性を感じた」などの感想を頂き、今回の就業体験実習が今後の進路や研究に活かされることが期待されます



ゴイシツバメシジミ保護対策実習の様子

都会の中の緑の森
多様な植物
コナラは日当たりの良い山地に普通にあり、里山の主要な木として薪炭材やキノコ原木として身近に利用されてきました。

名前はミスナラをオオナラと呼ぶ地方もあり、ミスナラに対する名前としてコナラがつけられたとの説があります。葉には柄があり鋸歯の先に、



若いときは鋸歯が腺点となっており判定するときの目印になります。花は春の短い期間に咲くので花を観察すると自然の造形にびっくりするほど精緻にできています。雄花は新枝の基部に着き、多数下垂し、雌花は新枝の上部に2から数個の花を上向きに咲かせます。堅果は年内に熟し、殻斗

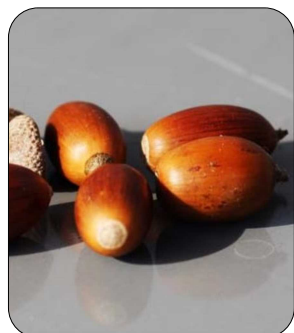


149 コナラ (ブナ科)

（総苞片）は覆瓦状に並び背部に微白毛を密生します。照葉樹林を薪炭林として長年利用しすぎるとだんだんと土地がやせて、落葉樹のコナラへと遷移します。対馬の上島は薪炭材として長年利用したことから、コナラの落葉樹に変化しています。

森林インストラクター

安条 行雄



世界で猛威を振るう新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない。「クラスター」「オーバーシュート」「ロックダウン」等々聞きなれない言葉が飛び交っている▼過去に発生した重症急性呼吸器症候群（SARS）、鳥インフルエンザなどは世界各国の早急な対応等により短期間で収束した。今回の新型コロナウイルスについても全世界が協力し早く終息に向かってもらいたいと願う▼一方、自然は毎年変わらない表情で、茶色ほかった山々が緑色に衣替えをしており、伐採後に植栽された苗木が根を張り、芽を膨らませ、今から大きく成長する時期である。しかし、シカが生息している地域では防護柵などの設置が必要であり、防護柵設置は見回りなどのメンテナンスも必要となる▼私が初めてシカ対策用の防護柵みたいなものを見たのは20数年前。ある若手の職員が知り合いの漁師さんからいらなくなった漁網をもらって造林地を囲みシカの進入防止を試みた▼まだ造林木へのシカ被害が少なかった頃の話であり、現在のような既製品は無かった時代である。結果は失敗であった。▼結果を求められるのが今の時代。これから先の時代は先輩方のこれまでの失敗を糧に若者はチャレンジし続け



（み）